大阪生まれの平成古典

創作講談と室内楽の不思議な出会い「音楽絵巻」
話題のコラボレーションがいよいよ茨木市にやってくる！

創作講談の中にバロックの名曲を編み込むという日本テレマン協会の「音楽絵巻」。

毎回ご当地の歴史をとりあげ、その土地の魅力を演奏会をとおして再発見するコンサート。

すでに全国50か所以上を行脚し、新聞各紙で注目のこのコンサートが、いよいよ茨木市に登場！

今回のテーマは「賤ヶ岳の七本槍」の一人でもある摂津茨木藩主片桐且元。

2011年度ＮＨＫ大河ドラマのテーマ＝浅井三姉妹のクライマックスといえば「大坂の陣」！

その舞台の明暗を大きく左右した戦国末期の英雄が下した一大決心の真意とは？

その真相に迫ります。

片桐　且元（かたぎり かつもと）

安土桃山時代・江戸時代の大名。
石田三成らと共に長浜城時代の羽柴秀吉の家臣として仕え、賤ヶ岳の戦いで福島正則や加藤清正らと共に活躍し「賤ヶ岳七本槍」の一人に数えられた。
後に摂津国茨木城主となる。秀吉の晩年には豊臣秀頼の傅役を任され、羽柴姓も与えられるほどの信頼を得ている。
秀吉死後は豊臣氏と徳川氏の対立を避けることに尽力。戦を避けるために家康との和平交渉に奔走した。しかし大坂城の内部から家康との内通を疑われるようになり逐電する。
大坂の役が始まると家康に味方し、徳川家の戦勝に寄与したが、大坂夏の陣後二十日ほどして突如の死を遂げている。

ぷろふぃーる Profile

◆旭堂 南左衛門

本名西野安彦。兵庫県三田市出身。近畿大学商経学部卒業後、三代目旭堂南陵に入門し南学を貰う。昭和62年に真打昇進。旭堂南左衛門を創名。平成３年第８回咲くやこの花賞（大阪市）を、平成５年には国立演芸場花形演芸会金賞を受賞。平成17年上方講談協会会長に就任。2000年日本テレマン協会主催の「ヘンデル：オラトリオ本邦初演シリーズ」に内容解説の講談師として出演し、以来作家・中野順哉との二人三脚で「上方講談」の創作活動を積極的に展開中。また平成18年十月花形歌舞伎「通し狂言・染模様恩愛御書」（松竹座）にて歌舞伎との共演が実現。以後平成22年三月花形歌舞伎「通し狂言・染模様恩愛御書」（日生劇場）に出演するなど、比類なき名人として上方講談における地位を盤石のものにしつつある。

◆中野　順哉

作家。日本テレマン協会代表。小説を作家・阿部牧郎、浄瑠璃台本を人間国宝の七世鶴沢寛治、歌舞伎台本を中村翫雀の各氏に師事。関西学院大学文学部フランス文学科卒業。在学中より日本テレマン協会の活動にライターとして参加。1993年には同協会の季刊誌「ゲオルク」を立ち上げ、1995年には編集長に就任。卒業と同時に作家・阿部牧郎に師事。2000年、琵琶湖浄化の紙をチラシ、プログラムなどに使用し、演奏会で年間5000トン以上（現在は8000トン以上）の湖水を浄化するという企画を立ち上げ注目される。また旭堂南左衛門とともに創作講談を手掛け70作以上の作品を執筆。各地の歴史を掘り起こし創作講談と音楽のコラボレーションをプロデュースしながら、文化振興につとめている。小説の代表作は「小説・延原武春」、「鏡の中のサムライ」など。

◆中野振一郎＆コレギウム・ムジクム・テレマン

京都生まれ。1986年桐朋学園大学音楽学部の演奏学科（古楽器専攻）を卒業。1990年10～11月に大阪で開いた４回連続の独奏会「ヨーロッパ・チェンバロ音楽の旅」により「大阪文化祭金賞」等を受賞。翌年７月にはフランスの「ヴェルサイユ古楽フェスティバル」のクープラン・サイクルに出演。ケネス・ギルバートやポブ・ファン・アスペレンら欧米を代表する名手と肩を並べ「世界の９人のチェンバリスト」の一人に選ばれる。1992年６月、「バークレー古楽フェスティバル」へ最年少の独奏家として招かれる。1993年ロンドンの独奏会場ウィグモア・ホールのデビュー・リサイタルを開き、「日本人には珍しいパーソナリティーを持っている。」と的確な評価を受けた。1994年10～12月にはサイモン・スタンデイジとの二重奏を含む３回連続の演奏会「チェンバロ三夜物語」を東京で開き、「豊かな表現」（音楽評論家・岡部真一郎氏＝日本経済新聞）が改めて注目を集めた。1995年３、６、10月と日本経済新聞社主催の「日経リサイタルシリーズ／ワークショップ　オブ　ミュージック」に出演し、「柔軟・自由・ほどよい即興で自然体、“楽興の時”をきざんでゆく」（音楽評論家・故中河原理氏＝1995年６月19日付朝日新聞・夕刊）或いは、「さりげない素顔を見せるこの若い音楽家は、間違いなく、日本が世界に誇るべき名手である」（音楽評論家・岡本　稔氏＝1995年10月20日付日本経済新聞・夕刊）と評された。1999年２月のドイツ招聘演奏旅行ではコレギウム・ムジクム・テレマンを率いて見事に聴衆を沸かせ、ソリストとしてだけではなく、オーケストラの音楽を構成するディレクターとしての魅力を国際的にアピールすることができた。また1999年の10月にはバッハの大曲「ゴルトベルク変奏曲」をＣＤ収録し、11月には東京・名古屋で、12月には大阪で公演。「各変奏が持つ世界を可能な限り忠実に描出しようとする真摯な姿勢には心を打たれる」「先人たちの遺産を鑑み、大地をしっかり踏まえた中野の解釈の方が説得力が大きい」「この基本的な解釈にさらなる年輪が刻まれるのを見守っていきたい」（音楽評論家・岡本稔氏＝1999年11月９日付日本経済新聞・夕刊）と絶賛された。12月の大阪公演はこれを皮切りに毎年行われている。2003年５月末にはドイツより日本から唯一招聘を受け、「バッハ　フェスティバル　in ライプツィヒ　2003」に出演。ソロ演奏会及びコレギウム・ムジクム・テレマンとの共演等、ソリストあるいはミュージックディレクターとしての力量を遺憾なく発揮。中でもライプツィヒにおける「ゴルトベルク変奏曲」は特筆すべき公演で、現地でも高い評価を得た。尚、この様子はＮＨＫ教育テレビ「芸術劇場」にて放映され国内でも話題になった。またＣＤの収録にも意欲的で、フランス、イタリア、ドイツ各国の作曲家の作品による多数のソロ・アルバムをリリース。中でも2000年にリリースした「ゴルトベルク変奏曲」ではヒストリカル・チェンバロとモダン・チェンバロによる演奏とをあわせて収録し、レコードアカデミー賞に輝いた。コレギウム・ムジクム・テレマンとのセッションによるＣＤも2000年以来毎年リリースしている。2003年７月にはソロＣＤを二枚同時にリリース。2004年５月にはバッハの「フランス組曲」をリリース。これもレコード芸術の特選版に選ばれている。又、同年７月から８月に掛けて行ったドイツでの単独リサイタルツアーでは現地でも大絶賛を受け大きな反響を呼び、続く10月に開催したリサイタルは「平成１６年度文化庁芸術祭・大賞」を受賞する等、日本のみならず世界のチェンバロ奏者としてその地位を不動のものにしている。

クオリア音楽フェスティバル

ＮＰＯ法人 con briO は、音楽イベントの開催を通して、
人と人との調和・あたたかいまちづくりに貢献します。

http://www.conbrio.or.jp/

コンブリオ